とかち新聞
主筆 松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1カ月200円　1カ年前納2,000円

問われる小林町政

西小新築をめぐり

西小学校をどうするのかが目下の足寄町政にとつて最大の課題となつており、十二月の定例町議会でのなりゆきが注目されています

小林町長は八月末に教育委員会にたいして、神社高台への移転新築は財政的に困難だとして再考を求ましたが、九月にひらいた定例町議会でも町長は神社高台は困難だと報告したもの、教育委員会側は議員のみ、神社高台が道知事が認可した運動公園にふくまれているところから、当局を打診して変更は可能であるとの確信を得たようで、神社高台を適地としてこれに賛成する者が多くなつており、特別委員のなかには『われわれは議会から調査研究を付託されたので、その結論を理事者が受け入れるかどうかは別問題だ』という向きもあり、町行政執行機関の一翼にある教育委員会が町当局と一体化しない現状は三者バラバラで

★「田中角栄研究ーその金脈と人脈」を載せた「文芸春秋」一冊によつて田中内閣が消えようとしていますが、この月刊誌よりも強力な日刊大新聞がどうしてその力を発揮しなかつたのでしょうか。

★総理大臣の会見ともなればあの多勢の記者団ーそれに田中番、大平番、福田番、三木番、中曽根番としての各記者が四六時中張りついているので、政治家の金脈、人脈については大新聞の収入の大半は広告料で

国のうちそと

弱い大新聞！

ラジオをもつている社が多いので大新聞といえども電波割当で時の政府に頭はあがらないしくみ。

★そこともつてきて大新聞は国有地の払い下げで社屋を建てており、テレビや義よりも会社の経営が大切で、中立、公平を装いながら常に権力、金力には忠実に、戦争になれば進軍ラッパを吹き、平和になれば一転して平和の鐘をたたくオツチョコチョイであること

★「田中角栄研究ーその金脈と人脈」を載せた「文芸春秋」一冊によつて田中内閣が消えようとしていますが、この月刊誌よりも強力な日刊大新聞がどうしてその力を発揮しなかつたのでしょうか。

★総理大臣の会見ともなればあの多勢の記者団ーそれに田中番、大平番、福田番、三木番、中曽根番としての各記者が四六時中張りついているので、政治家の金脈、人脈については大新聞の収入の大半は広告料で

★そこともつてきて大新聞は国有地の払い下げで社屋を建てており、テレビやラジオをもつている社が多いので大新聞といえども電波割当で時の政府に頭はあがらないしくみ。

★そこともつてきて大新聞は国有地の払い下げで社屋を建てており、テレビやラジオをもつている社が多いので大新聞といえども電波割当で時の政府に頭はあがらないしくみ。

★何十万部、何百万部もの発行部数をもつ大新聞とは